

## 2020年度 古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」 第4回 報告書

**開催日** 第4土曜日 2020年7月25日(土) 読書会 9時半～11時半

**開催場所** Zoomにて開催

**参加者** 5名(全て会員)

### 内 容

#### (1)参加者自己紹介

#### (2)朗読

阿部國治著・栗山要編「第三集 少彦名(すくなさま)」 Zoomを用いて全員で順番に輪読

#### (3)読後感

- 「少なさま」はあまりにも小さすぎて、人も気が付かず感謝してもらうことはないが、人のためになるような良い仕事をしている。大国主命は、自分の名前を明かさず、少なさまの弟分となって一緒に全国をまわって国造りをした。国造りを土木と捉えれば、私を含め多くの名もなき土木技術者は、少なさまの仕事でなければならず、そうでなければ良い仕事はできないと受け取った。「人の役に立つことをしたとき、人からほめられようと、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない」という、聖書の言葉がある
- 小さな「少なさま」に目を向けた、大国主命はすごい。中村哲先生も同様に素晴らしいと思った
- 自分達で成し遂げたという実感が皆の笑顔や生気に繋がるのだと思う。大国主命の名前が出ると大国主命に助けて頂いたということが引け目になって、民は心からの喜びにつながらないのではないか
- 中村哲先生が、現地の人から自らの手で灌漑事業を進められるように心を尽くしたことは、少なさまの心に通じる。中村哲先生は、大国主命であり、少なさまであったと思う
- 本当の意味での情報収集は案山子にならないとできない。得られた情報をもとに行動を起こすには、大国主命になり、少なさまになる、ということではないかと思う
- 前回に続き大国主命の名前が沢山出てきたが、大国主命が沢山いる理由については、大和朝廷が各地を支配する過程で、力で制圧するだけでは人々の心を掌握できないと考え、各地の言い伝えの中から、大国主命にふさわしい神様を選びだした結果、名前も奥さんも沢山になったのではないか。あくまでも阿部先生の仰るとおり古事記は一夫一婦制を推奨していると思いたい
- 名前を出して仕事をしているうちは民に満足を与えられず、少なさまの弟子となり名前を捨ててなした大国主命の成果に、民も満足した。鉄道工事の大規模切換では千人規模の作業員、監督、発注者等が1夜で作業し、皆が「自分が造った」と感じている。名前を出さずに働くところは土木と通じるのでは
- 今回の一番面白い箇所は「名前を捨てないと見えてこない」というところでは
- 中村先生が恨まれたことも、名前が出てしまったことも関係するのでは。先生は望んでいなかったが
- 今回は少人数であったが、深く「反省」できたように思う。何度読んでも自分の中で消化しきれないところがあり、新しい発見にもなっている
- 少なさまが乗ってきた天之蘿摩船(あまのかがみのふね)の「かがみ」が気になり調べたところ、ガガイモという植物で、散歩中なんとこのガガイモの花を発見!花は1cmもない小さな五弁の星形で、ピンクの花びらは肉厚で産毛のようなものに覆われている。少なさまを常に近くで感じていなさいとの大国主命の計らいと受け取った

○古事記を輪読するようになり、日本にも素晴らしい教科書があるではないか！と毎回感嘆している。諸外国では聖書が、中国では論語などが有名だが、それに匹敵する古事記を知れて弥栄の会に参加することが、とても楽しみとなってきている。古事記は日本の奥ゆかしさを表すようなストーリー仕立てとなっているところも共感を得る



参加者が散歩で発見した「ガガイモ」の花  
※少なさまが乗っていた船

**【次回予定】**

**2020年8月29日(土)9時半～11時半。次回もZoomを予定。もう一度「少彦名」を味わう**

連絡先：参加申込方法：開催日の1週間前までに、下記の必要事項を記入の上、メールにてお申し込みください。

**【必要事項】** 所属支部、氏名、緊急連絡先(携帯)

申込先：reading-circle@womencivilengineers.com (担当：小林)

**以上**